

第 13 回エリア会議・議事要旨

【地域の活動等について】

- ・健民祭（自治町内会対抗運動会）で、勝つ地区が時代とともに変わるという話は、恐らく年代層が入れ代わってきているのだと思う。そういう歴史は今後の団地を考えていく上で極めて重要な要素なので何らかの形でまとめていく努力されてはどうか。
- ・京都大学の研究会に参加する中で「まちづくりに親が参加して熱心だと、その子どもに伝染する」という議論をしており、大規模なアンケート調査で明確な結果が得られている。単に新たに人材を育てるのではなく、そういう土壌の中で人材を育てていく、そういう環境をどう構築していくか。洋光台の皆さんが活躍するような場所だと自然に人材が生まれてくる、努力はあると思うが他地域よりもしっかりした人材が生まれてくるのではないかと思う。
- ・特に女性は結婚したら洋光台の周辺に戻ってきていて、中には PTA 会長を務めている人もいる。「戻ってきてほしい」が一番の目的でプレイパークやトンボ池を展開している。
- ・子どもが帰ってくる・コミュニティ活動の日の当たる部分などの良いほうはきちんと評価してそれを続けることが必要だが、そうではない部分をどうするかを考えなければいけない。子どもがいない、事情で近くには住めない時は互いに助け合えることができない…そこを補うコミュニティの中の力をどうつくっていけばいいかが同時に課題になる。
- ・私は洋光台が実家という感覚はないが、40 代・50 代で洋光台を「実家」と言う人が増えているのは心強い。
- ・洋光台の歴史を知りたがっている人が多く、歴史の本を出している人もいるので、その人たちが元気なうちにまちとして確立しておきたい。
- ・磯子にも郷土研究を熱心にされている方がいるのでそこにつながる話だと思う。
- ・UR で団地開発に携わった技術者の方々の当時の思いなども重ね合わせられると、結構面白いものになるのではないか。少し新しい歴史ですが、今でないと拾えない歴史かとも思う。
- ・洋光台第二小学校の 3 年生の先生から「洋光台地区の歴史を児童に教えてほしい」と依頼があり前会長と話をしてきた。小学校でも洋光台の地固めをしている。
- ・濱恵介さん（団地開発関係の方）に以前お話いただいたので、もう一度とお呼びして紐解くこともできると思う。ニュータウンがふるさと化という話も出てきていたりする。

【次世代スタイル WG について】

- ・今年が 3 年目で最終年だがどのような形でまとめるのか。
- ・まち歩き地図と住まい方に関するリーフレットのような形で成果物をつくりたい。
- ・エリア会議では、エリア会議の一つの提案として展開していきたい。
- ・高齢者の見守り系で色々な可能性があるのではという議論の一方で、それがビジネスに直結しない、お金やプライバシーの問題もあったので、企業には分かったことと課題も成果として一つにまとめるよう話をしている。
- ・企業が入ってくる話と住宅街の住民の活動にギャップがあるので分析して、そこをどのようにして埋めるかが今後の洋光台にとって大きな話。最終的には企業が儲かり社会的な活動として出て

くると非常に良いことだが、そこまでは行っていない。

- ・ 既存のまちで行うのは、新しいまちでゼロから行うより越えるハードルが幾つかあって、その手間と広がっていくスピードを考えると企業は乗らない。そこはずいぶん議論した。
- ・ 今、企業はすぐに成果を求められるので、何年も続けて成果が出ないと微妙なニュアンスも伝わってくる。もう少し鷹揚にならないと、フィールドがあっても成果は出ないと思う。
- ・ 成果を求めている企業はみんな同じ方向を向いて成果を求めているのか、それぞればらばらなのか。求めている成果を企業は最初からどういう枠組で捉えているのかが見えてこない。それぞれ個別には面白いが理解の枠組が入ってこない。
- ・ 参画している企業は同じバックグラウンドを持っており、分電盤に対する計測機器を取り付けることでエネルギーにかかわる情報を取得し、それをビジネスに、見守りや生活サポートに結びつけていこうと考えているが、まずはデータ自体、ビッグデータを取りたいのが本音。
- ・ 何かを使ってデータを取れば利益が出るという感覚で行うより、「居住」の持続性や安定性、居住地に対する愛着、安心感などの醸成に、企業がどうかかわればいいのかという、少し違う枠組があるのではないか。そういう話が全然出てこないで、せつかくお金を持っている企業がもったいないという感じがする。

【平成 30 年度以降の活動について】

- ・ 現在、行政、UR、まち協中心で進めている中に、新たな活動の方を入れながら、会議体はどう持っていけるかを考えていく。
- ・ エリア会議の発展形を考えている部分もあり、団地再生の中で様々な活動をされている組織・人材がいるものをどういう形で一つのプラットフォームとしてまとめられるか、広く長いスタンスで考えるべきテーマ、それがまとめて一緒になっている。
- ・ UR としてはリーディングでやっているので単品製品にならないよう、きちんとまとめることと、展開・再現性を考えなければならない。
- ・ こういう活動があるところで、コンサルタントがこれを商売・仕事として出来て、きちんとした報酬が支払われ事業として成立するという世界を作り出す。まず UR がそういう世界を構築しないといけない。
- ・ アメリカ、イギリス、ドイツでも BID(民間が行うエリアマネジメント活動の資金を自治体が再配分し、公共空間の管理も一体的に任せて街づくりを推進する制度)というエリアマネジメントが動いている。先日、ドイツの BID の方々のメンバーシップを見たら、洋光台で活動するコンサルタントが発展したようなコンサルタントがそこでマネジメントを仕事としている。
- ・ 国交省が法制度化しようとしているが、財源をどう獲得するかで悩んでいる。例えばこのエリア全体から少しずつお金を集め、マネジメントする会社が動き始めて、皆さんが自主的に努力する部分と、企業が入って色々なことを支援するという関係をとったほうが、成果が上がるのではないか。海外版はそうになっている。一般的には大都市の都心部での展開で、住宅地でどこまで対応できるか。
- ・ 資料 5 P 2 (問題解決のアイデアストック) は、今までの蓄積のまとめであれば、展開の狙い・関係者と関わり方、想定外の効果という視点でアイデア・ヒントの表ができるといい。資料 5 P 3 の「適正化」「最適化」という単語は最適のイメージが人により違うので気をつける。良い点は P 1

の問題意識、「活動力」「持続性」「魅力」、今日ずっと議論していてすごく大事だと思った。土木側の人間からすると、何か災害が起きたときに力をあわせて対処していくことができるポテンシャルがある、そういうまちが魅力的だからこそ人が戻ってくるとのことだし、こういう独立したファクターでつながり、そこが2枚目や3枚目にうまくつながる資料にするといい。

【洋光台まちづくりアンケートの更なる分析について】

- ・まちづくりアンケートの分析結果を学会等で発表するようなスライドではなく、数字・式のないスライドで説明してみることを試みた。提案資料は、この先もう少し分析することで、グループごとに考えていることの仕掛けが違うということまで行き着くので意味がある。
- ・提案資料は例示で、実感に合う形にするにはトライ&エラーで進めていく分析になる。分析のニーズがあるなら前向きに考えたい。
- ・ニーズはある。H25・H28 調査の次は H31 に実施する予定。その頃はまちの様相がかなり変わり、活動も変わるはずなので、分析に効いてくる要素も出てくる。
- ・こういう構造が見えると、政策を打つときにこれとこれを組み合わせるとこういう効果があるとか、これとこれを一緒にすると打ち消し合ってしまうということがある程度短観的に見えるので、そういうところで活用できれば。

以 上